
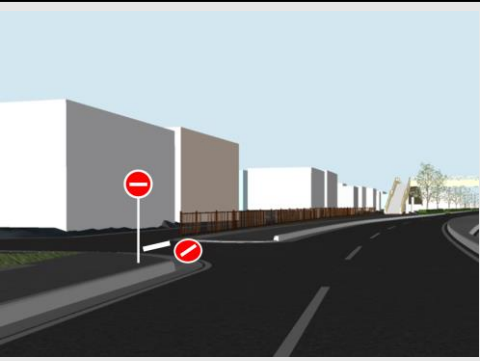




# 生活道路の安全対策について



# 生活道路との接続部の処理方法について

	案1 通常接続	案2 一方通行処理	案3 バリケード(車止め)による処理	案4 接続させない
イメージ				
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>信号機もなく利便性に優れる。(中央分離帯が整備されるため、左折での本線合流、左折での生活道路流入のみ)</li> <li>緊急車両等の通行も可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内からの車は本線に合流可能。(左折のみ)</li> <li>本線から地区内への通過交通を除くことができる。</li> <li>緊急車両等の通行も可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路と本線の交通を完全に分離できる。</li> <li>災害時等は、車止めを外すことにより緊急車両等の進入が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路と本線の交通を完全に分離できる。</li> <li>歩車道境界の縁石が連続するため歩行者の安全性が増す。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路に通過交通が流入する恐れがある。</li> <li>本線との交差箇所が多いため事故の恐れが高くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路が本線への抜け道として利用される恐れがある。</li> <li>近隣住民が本線へ流入するためには迂回が必要となり利便性に劣る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民が本線を利用する際には迂回が必要となり利便性が一方通行案より更に劣る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民が本線を利用する際には迂回が必要となり利便性が一方通行案より更に劣る。</li> <li>災害時等であっても緊急車両は進入できない。</li> </ul>

## 【その他】

- 各生活道路の利用状況や本線沿線の土地の接道も考慮する必要があることなどから、すべての接続箇所において同様の処理をするのではなく、それぞれの箇所において接続処理方法を決定していくことも考えられる。